

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-10-26

第二号 二 入会権ノ起因

(発行年 / Year)

1910

第二号

二
入會權、起因

法典調查會

○入會権ノ起因ハ明詳ナラスト虫モ里民ノ口牌ニ傳ナル所ヲ以テスレハ元松山藩山奉行所ニ於テ關係村民ノ採薪ニ困難セルヲ以テ入會所ト定メタリ趣大字小屋峠ニ關係セル部谷ニハ該大字人民貧困セルヲ天保年間郡代官所扱ヲ以テ該大字元畑ノ租稅各關係郡立落ヨリ補助セシメ入會所ヲ大ニ擴マリ(久米郡小野村外四ヶ村)

○入會権ノ起因ハ明治十三年八月ナリ(風早郡灘波村立落)

○不詳(風早郡河野村粟井村)

○入會権ノ起因ハ今其年代等ハ詳ニスル能ハズト虫モ土地ノ口碑ニ依ルニ其起因ハ甚々遠ク鎌倉時代即チ北條氏ノ代ヨリ人民皆チ東山ヲ私有物視シテチ新炭ヲ伐採セシハ入會ノ起因ナラント云フ(北村山郡宮澤村)

法典調査會

○入會権ノ起因詳チナラスト虫モ東保元年丙申九月

秋彦大夫殿ノ裁許書ニ延宝七年赤五月三沢山入會

ニ關スル規約書ニ依リ其入會ナル丁ヲ証スレシ(北山村郡大倉村)

○不詳(北村山郡玉野村)

○起因ニ關スル記錄等無之取調ルニ由ナシ(東置賜郡中川村)

○詳チナラス(大上郡芳谷村大字水谷久徳村大字栗栖)

○元錄年以前本郡北浦村大字古江南浦村大字熊野江兩村ノ間ニ於チ村界ヲ異ニシ爭論ヲ始メタルモ地所ハ互ニ入會シ然ルニ元錄年間再々爭論ニ及ビタル處全十五年六月二日双方入會地ト取分ノ上地圖下付セラレタリ(東臼杵郡南浦村)

○詳チナラス(甲賀郡北杣村大字千飼)

一〇 佐古ヨリ因龍表スルモノニシテ詳ナラス(治田村生川村治田村町下喜村)

一一 入會權の起因トハ森林原野ノ係ヲ護上ニ外ナラスト云モ其起因ハ詳カナラス(桑名郡大山田村)

一二 寛文三年前ヨリ入會スルモ其詳不詳(庵原郡高部村柳尾)

一三 其起因何レハ時代ト云フコトヲ知ラス中古ニ至リ種々ノ証據書類ヲ掲ケテ訴訟ヲ起セシ事ヤリシカ証據十分ナラス古老ノ云ヒ傳ヘニ據リテ考フルニ佐古ヨリ山林原野ニハ納租ノ義務ナキ

一四 モノニメ隨テ取締方法ナレ畢竟山林原野ニ價値ナキナリ故ニ總テ山林原野ハ人家ニ近接ノ分郡ノミ所有ノ定メテリ遠隔ノ地及山中腹以上ニ至テハ入會勝手次第ニメ近傍ノ人民ハ盡ク

一五 其生産物ヲ牧ヲ獲シタリシニ人家増加シ田畑开拓ノ事業起リシ為メ山林原野ノ必要ヲ知り従来入會シ来リタル柳村ヲ

一六 際限トシテ今日入會區域ヲ為セシモノナリ(安倍郡麻機村)

一七 寶永三年以前ニ起因スレ共其理由詳カナラス(山名郡笠西村)

一八 入會權ノ起因ハ維新數百年先ノコトニメ詳ナラス

一九 不詳(豊田郡三川村調)

二〇 不詳(引佐郡鹿玉村)

二一 旧藩中甲村ニハ森林多分有之モ乙丙村ニ寡少及絶テ無キ村アリテ農業上困難ヲ究ムルヲ以テ甲村ノ草山ニ入込ニ草薙ヲ稼キ居リタルモノ習慣トナリ遂ニ入會山トナレリ(因幡國八上郡久長村三保村)

二二 往古山林制度ノ完全セサルヤ依令ハ甲乙二村ニ於テ甲ハ耕地ニ饒カニ秣場ニ之シ乙之ニ及ス然ルキハ甲ヨリ無断ニ乙地盤内ノ

二〇 養草ヲ收得スルノ習慣ヨリ起因シ維新ノ後更ニ之レテ甲乙耕地ノ廣狹ニ比例シ分轄シ入會權ヲ確定ス(因幡國八東郡安部村)

二一 安部村

法典調査會

ニ一 ○入會權ノ起因タルモノハ古來村ノ分合及耕地耕作并ニ生活
上ノ実況ヨリ近傍各大字村森林原野ヲ平等ニ共有ナサシムルノ
旨趣ヲ以テナリ(口佐治村)

ニ二 ○入會權ノ起因タル甲村ハ多ク森林原野ヲ有シ乙丙村ニ至テハ
其所有少ク為メニ肥料常ニ欠乏セルヲ以テ乙丙村ヨリ甲村ニ對シ
入込方ヲ求ムルニ當リ隣村ノ情義上余レルヲ以テ足ラサルヲ救フ
ノ点ヨリ之ヲ承諾シ双方入込ニ自由ヲ得タリ(八東郡若櫻村
赤松村)

ニ三 ○入會村ハ往古ヨリ(年号)概シテ耕地及別ニ比較シ原野之
シテ為メニ近村ノ餘裕原野ニ入り根リニ草萊ヲ薙取ルヲ起因
トス(八東郡中私都村)

ニ四 ○今日ニ於テ確然タル証跡ナシ但今傳ヘ云フ處ハ地元村專
用ノ權アリシモ他ノ村落ニモ刈草ニ之シケム時々少々ノ權方
ヲ依頼シ又ハ無斷ニテ刈取スルノ數年ヲ経テ恰モ慣例ノ安ト
ナリ終ニハ公然タル入會場トナリシモノナリ故ニ元專用權アリシ
則々地元人民ニ自由權利多シ(高草郡松保村)

法典編 卷四

ニ五 ○不詳(氣多郡中郷村)

ニ六 ○入會權ノ起因ハ口傳記錄ニ存スルナリ往古ヨリ慣例ニ基キ
労働ニ成立上詳ナラス(氣多郡勝谷村)

ニ七 ○入會ハ其入會村草山ノ僅少ナルニヨリ入會刈ト相成リシモノ
ナルニシ其他起因不詳(高草郡大和村)

ニ八 ○不詳(駿東郡泉村)

ニ九 ○前記ニ含蓄スルヲ以テ再記セス(駿東郡富士岡村)

三〇 ○入會權ノ起因ハ判然セザルモ往古ヨリ其地ニ立入テ山蓋ヲ採リ
來リ順次子孫ニ傳ヘシ習慣タリ(駿東郡玉穗村)

三一 ○不詳(何鹿郡物部村字新庄)

ト唱工旧領主工料米ヲ納付シ来リ其當時免状及其他差出
シ等ニ記載アリテ今尚存ス之レカ起因トシ引續キ入會使用
シ来リタルモノナリ(佐野郡原田村)

○城東郡河城村富田御料原野ハ元富田村公有地ニ有之一村
共有ニテ秣苜取来リ候慶嘉永六年正月榛原郡金谷町若
川全町神谷城(當時西深谷村東深谷村
石神村若川村四ヶ村)ノ貳ヶ所ニ區域ヲ

限リ貸渡ス其起因スル慶東深谷村ニ岩壻其ノモノアリ村民
秣ニ欠乏困難ナルヲ以テ地元富田村某ハ親戚ノ縁故アルヲ以テ全
全氏ニ依リ秣場借用致シ度旨村内一同ノ數回依頼有之依テ

村内協議之上隣保ノ交誼ヲ重シシテ廿年限リ貸渡之約定ニ
テ及別ニ拾町七及步貸渡シ歲米貳俵貳斗相納メサセ(當時
年貢米
ト納メ)秣為苜取(租毎年約定
書書換ル)来リ候慶明治八年地租
改正ノ際氏有ノ証無之官有地ニ御編入相成全九年右至

法典調査會

谷町若谷全町神谷城ヨリ従来秣場借用秣苜取ノ縁故
ヲ以テ官衙ヨリ直拝借之義旧濱松縣ノ出頭双方示談之上別
紙約定書之通り確定全廿二年九月 皇宮地附屬地、御編
入相成候續入會城東郡河城村友田御料原野ハ元友田村公有
地ニ有之一村共有ニテ秣苜取来リ候慶弘化元年正月ニ至リ榛原
郡金六町神谷城(元石神村全東深谷村
全西深谷村、三ヶ村)ノ一ヶ所ノ區域ヲ張
リ貸渡ス其起因ハ全所人民秣場ニ欠乏之誠ニ困難ナル旨ニテ
秣場借用致度由再三依頼有之ニ付村内協議候慶德義上
隣保ノ交誼ヲ重シ不得止一ヶ年限リ約定ヲ了シ全所ニ接近
ナルヶ所三分方貸渡シ年貢米トシテ毎年七俵壹斗宛相納
サセ秣為苜取米(但シ毎年約定
書々換ル)候慶文久三亥年正月ニ
至リ世ノ進歩ト共ニ秣場不足ヲ告ケ及別ニ三町步返戻致サセ
自然年貢米モ六俵貳斗壹外宛ニ引下ケ相納サセ来リ候慶

明治八年地租改正ノ際民有ノ証無之官有地ニ編入シ今九年右
釜谷町神谷城ヨリ最前貸付タル徳義ヲ不顧地元村ノ無談妄
秣直拝借之義旧濱縣廳ニ出願シタルニ双方示談ノ上別紙約
定書ヲ通リ今年七月確定今廿二年九月 皇宮地附屬地ノ御
編入相成引續入會(城東郡河城村)

〇入會權起因ハ本村中ニ秣肥料欠乏ニ居ルヨリ起リタル者ナ
リ(佐野郡倉真村)

〇文録年尚以前ニシテ其起因トスル處不明ナレモ豫想スルニ樹木ノ
濫伐ヲ防キ專ラ成育ヲ圖リ以テ耕地ニ灌漑ニ 源ヲ涵養スルノ目
的ニ起因セシナラシ(城東郡笠原村)

〇不詳(周智郡)

〇不詳(飯高郡川俣村)

〇不詳(度會郡宮本村)

法典調 査會

〇不詳(度會郡四郷村)

〇一頁見人民ニ於テハ元録十四己年ヨリ立入モ原因不詳

一湯屋谷人民ニ於テ昔年ヨリ立入モ原因不詳或説ヨリ元
大滝ノ人民數十人湯屋谷ノ轉住シタルヨリ此權ヲ有スト云フ
モ漠然ナリ(名張郡箕曲村 伊賀郡古山村)

〇入會權起因ハ其初メ詳カニスル能ハス按スルニ今ヲ距ル三百年
以前當時ノ藩主九鬼氏ヨリ入會權ヲ免許サレタル書ニ依熟

考ストトキハ該年度ヨリ數百年以前双方ノ間ニ契約整ヘ管島
安樂島共我村ニ入會權ヲ典ユシモノナラシ(答志郡答志村加茂村)

〇入會權起因傳其古キニ在ツテハ之ヲ詳ニスル事ヲ得スト虫ハ
旧藩政ノ頃ニハ或ハ上水永代定請ト称シ札銀ヲ納メ松杉檜檜
四種ノミヲ採收シ或ハ黒木定請ト称シ年限定メ札銀ヲ約メ
黒木ノミヲ採收スルヲ得ルノ外猶札銀ヲ納メ雜木及芝草

四七

四七

四八

四九

五〇

五一

五二

五三

五四

ヲ苜取リ又ハ札銀ヲ納メガビテ芝草ノミヲ苜取ル慣行アリシ是レ必竟スルニ耕作ノ肥料及新料ノ必需ナルニヨルモノナランカ而シテ明治六年地券發行ノ詔其ヶ所ハ上水定請人ヨリ地代ヲ納ム一私人ノ所有トナリシモ雜木芝草等ハ旧慣ニ據リ入會苜ヲ持統ス(阿波郡)

○大字川崎村ハ三繩村ノ南隅ニ僻在シテ西北吉野川東ハ松尾川ニ接シ南ハ義馬郡祖谷山村ニ接續シ土地峻險ヲ極メ深山多ク行通自由ナラサルヨリ新及肥草ニ乏シク農業上困難ス茲ヲ以テ其所有者ハ愛情ヨリ村民ハ入會刈ノ使ヲ與ヘタル慣往昔ヨリ現今尚之ヲ存セリ(三好郡三繩村大字川崎村)

○舊記又ハ口碑等ニモ傳ヘス(那賀郡立江村)

○不詳(那賀郡大野村勝浦郡小松島村)

○不詳

法典調査會

○全郡全村大字全村ニ於テ入會權ナルモノヲ設定セシ年号月日及其理由共不詳地租改正前ハ下草・柴ニ限リ入會苜ナルモ地租改正ナルト虫氏旧慣行ニヨリ協議ノ上別紙規約書ヲ通リ聊カ會權限ヲ變更設立シタリ(那賀郡長生村大字大原村)

○全郡全村大字全村ニ於テ入會權ナルモノヲ設定セシ年号月日及其理由共不詳維新前ヨリ下草入會苜ナルモ明治二十年十二月十五日付ヲ以テ明谷村官有山肥料ノ義ハ詮議シ次第有之自今苜取不相成旨本縣知事ヨリ御達相成候ニ付入會村協議ノ上明治廿一年三月廿八日ヲ以テ官有地満五ヶ年間拜借上願仕猶又明治廿五年十二月廿六日官有地拜借繼續上願仕明治三十一年一月迄拜借ノ義御聽許相成タリ(那賀郡長生村大字明谷村)

○本件ハ惣テ紫草山ニシテ旧藩砌ハ無税ニシテ新或ハ肥

料ニ充ツル慣行ナリシヤ明治四年惣テ拂下トナル

○其年歴等ハ詳カナラサルモ昔時ヨリ存在シ農業上尤モ要
用ニシテ能ク公平ヲ旨トシ村民相共ニ其收益ヲ分ツノ目的
ニ起因セシモノナリ(名西郡神領村)

○羊矢村ニツイテハ新山入會権ノ起因ニアリハ從來百姓ノ共
有アリハ官有ニシテ旧藩制ノ項ハ時々公用ノ人夫ヲ使役スルノ
制ニシテ百姓ニ在テハ貧富ニ應シ等差ヲ付シ夫役ト称シ出
役シ之レカ手當トシテ毎村ニ區域ヲ定メ農民ニツイテ下草
或ハ新ヲ伐採ス然ルニ廢藩置縣ニ際シ右森林ハ床錢上
木代ヲ納付シ民有ニ拂下ヲ受ケ農民旧慣行ヲ出役ニ應
シ出金シ共有ト為シタリ肥草山ハ元官有ニシテ旧藩制ノ頃
ハ農民耕作地肥料ノ為メ下草ヲ苜取ノ慣行ナリシヲ廢シ藩置
縣ニ際シ全ク官有ニ改シタルヲ以テ床錢ヲ納メ拂下ヲ受ケ農民
共有トナシタリ

法典調査會

○右ハ村内赤貧者ニシテ自己所有ノ山林原野ナキモノ票
字久保村
突喰村ニツイテハ旧藩政ノ際現今大字久保村外九大字村
々民ニツイテ伐換畑ノ名称ヲ以テ額受茲ニ始メテ所用ノ權ヲ得
渡世山及椽山ノニ分ケ入會トナシ示後其維持及諸般ノ方
法宜シカラサル處アリシヲ以テ官廳ニツイテ他年村民ノ不利益
ナル事ヲ深ク被慮ニ時官ニ引揚官林ト為シ揃木繁茂ノ
度ヲ計リ更ニ村民救助ノ為メ莫如金ニテ輪年甲ノ山林ハ五
年乃至十年
年期ヲ定メ拂下ニハ甲ノ
年期滿ツル年ヨリ又年期ヲ定メ
拂下ル事前ノ通立木
伐採ノ許可ヲ與ヘラレ依之村民家事ヲ助ケ然ラシメテ
維新後明治四年ニ至リ相當代價ヲ以テ拂下ヲ受ケ十ヶ村
共有トシテ入會権ハ仍ホ従前ノ通慣例ヲ存ス突喰村大
字久保村

郡 用ニ供スル為ニ村ノ共有財産ヲ以テ買入レタルモノナリ(麻植)

法典調査會